

2026 年 8 月 28 日

台湾・7月雇用は分野ごとのばらつきが鮮明に(Asia Weekly)

～世界的な AI・半導体需要の旺盛さがタイの輸出を押し上げる展開が続く～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL : 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/24(月)	(シンガポール)7月消費者物価(前年比)	+2.2%	+2.3%	+1.9%
	(台湾)7月失業率(季調済)	3.33%	--	3.33%
8/26(水)	(オーストラリア)7月消費者物価(前年比)	+3.5%	+3.3%	+3.8%
	(シンガポール)7月鉱工業生産(前年比)	+6.8%	+6.8%	+7.5%
	(タイ)金融政策委員会(政策金利)	1.00%	1.00%	1.00%
8/27(木)	(韓国)金融政策委員会(政策金利)	3.00%	3.00%	2.75%
	(タイ)7月輸出(前年比)	+21.6%	+17.7%	+20.8%
	7月輸入(前年比)	+36.7%	+42.2%	+50.3%
	7月製造業生産(前年比)	+0.46%	▲1.00%	▲2.38%
	(フィリピン)金融政策委員会(政策金利)	5.00%	5.00%	4.75%
8/28(金)	(フィリピン)7月輸出(前年比)	+10.8%	--	+24.1%
	7月輸入(前年比)	+19.8%	--	+19.6%

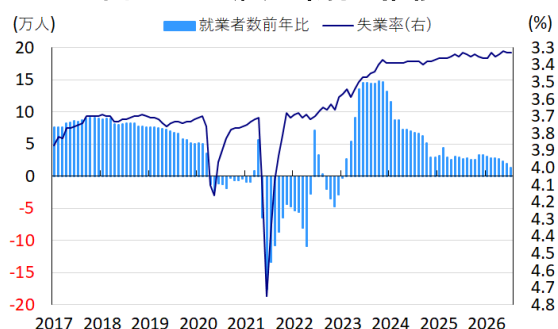
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～失業率は横ばいで推移するも、雇用を取り巻く環境は分野ごとにばらつきが広がっている～

24日に発表された7月の失業率(季調済)は3.33%となり、前月(3.33%)から2ヵ月連続で横ばいとなった。失業者数は前月比+0.0万人と前月(同+0.0万人)から2ヵ月連続でほぼ横ばいとなっており、中期的な基調にも減少の動きに一服感が出ている。新卒者では減少が続いているほか、既卒者で増加する動きがみられるものの、自発的失業は増加基調を強めており、労働市場に一定の改善の兆しが出ている可能性がある。ただし、雇用者数は前月比▲0.2万人と前月(同+0.0万人)から4ヵ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も増加ペースが鈍化するなど、持ち直しの動きに一服感が出ている。分野別では、建設業や公益関連で雇用拡大が続いているほか、鉱業部門でも持ち直しの動きがみられる一方、サービス業では頭打ちとなるとともに、製造業では調整の動きが続くなど、分野ごとのばらつきが鮮明になっている。労働力人口は前月比▲0.2万人と前月(同+0.1万人)から3ヵ月ぶりの減少に転じており、労働参加率も59.59%と前月(59.60%)からわずかに低下した。とはいえ、依然として歴史的な高水準で推移しており、雇用環境には底堅さもう

かがえる。

図1 TW 雇用環境の推移



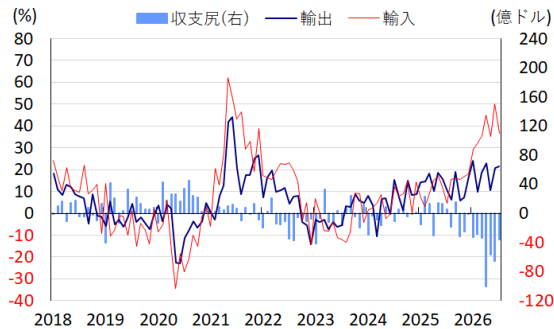
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[タイ]～世界的な AI・半導体需要の旺盛さが輸出を下支えし、輸出全体でも持ち直しの動きが続く～

27日に発表された7月の輸出額は前年同月比+21.6%となり、前月（同+20.8%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヵ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、持ち直しの動きが続いている。財別では、原油高の一服を反映して石油製品関連の輸出額に下押し圧力がかかる一方、世界的なAI（人工知能）・半導体関連投資の旺盛さを反映して、半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連の輸出が堅調な動きをみせるとともに、農産品関連の輸出の旺盛な動きも輸出全体を下支えしている。国・地域別では、ASEAN（東南アジア諸国連合）など周辺国向け輸出は鈍化しているものの、最大の輸出相手である中国向けは堅調な動きをみせるとともに、米国や日本、EU（欧州連合）など先進国向けは軒並み拡大している。一方、輸入額は前年同月比+36.7%となり、前月（同+50.3%）から伸びが鈍化した。前月比も2ヵ月ぶりの減少に転じたと試算されるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、持ち直しの動きに変化の兆しが出ている。原油高の一服を反映して原油などエネルギー関連の輸入が減少するとともに、鉱物資源関連の輸入も調整したほか、消費財関連や中間財関連の輸入も下振れするなど、幅広い分野で輸入に下押し圧力がかかっている。その結果、貿易収支は▲36.11億ドルと前月（▲65.35億ドル）から赤字幅が縮小した。

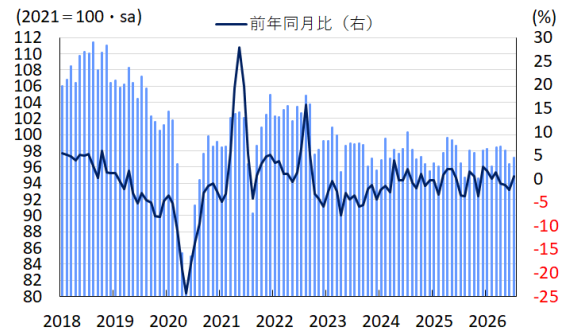
また、同日に発表された7月の製造業生産は前年同月比+0.46%となり、前月（同▲2.38%）から4ヵ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も+0.78%と前月（同▲1.66%）から3ヵ月ぶりの拡大に転じており、減少傾向が続いた流れに変化の兆しが出ている。ただし、中期的な基調は依然として減少傾向で推移するなど、力強さを欠いている。輸出は堅調な動きをみせている一方、半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連、自動車など輸送用機械関連の生産には軒並み下押し圧力がかかっている。他方、化学製品関連のほか、縫製品など軽工業関連の生産は拡大する動きをみせるなど、分野ごとのばらつきが鮮明になっている。

図2 TH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

図3 TH 製造業生産の推移

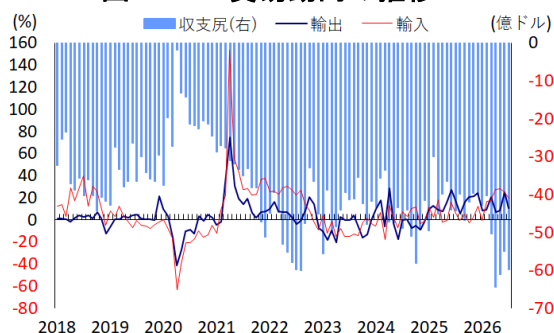


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[フィリピン]～世界的なAI・半導体需要の旺盛さにもかかわらず、半導体関連を中心に輸出に下押し圧力～

28日に発表された7月の輸出額は前年同月比+10.8%となり、前月（同+24.1%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は3ヵ月ぶりの減少に転じており、持ち直しの動きに一服感が出ている。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の輸出に下押し圧力がかかるとともに、鉱物資源関連や果物など幅広い分野で輸出が下振れしている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けのほか、ASEAN（東南アジア諸国連合）など周辺国向けや韓国、台湾向けに加え、米国や日本、EU（欧州連合）など先進国向けも総じて下振れしている。一方、輸入額は前年同月比+19.8%となり、前月（同+19.6%）からわずかに伸びが加速した。ただし、前月比は2ヵ月ぶりの減少に転じたと試算されるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、頭打ちの様相を強めている。輸出の持ち直しの動きに一服感が出ていることを反映して、半導体など素材・部材関連の輸入が下振れするとともに、原油高の一服を受けて鉱物資源関連の輸入にも下押し圧力がかかっている。その結果、貿易収支は▲59.73億ドルと前月（▲54.97億ドル）から赤字幅が拡大している。

図4 PH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[シンガポール]～生活必需品を中心に物価上昇が続き、インフレ率は2024年8月以来の高水準に～

24日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+2.2%となり、前月（同+1.9%）から加速して2024年8月以来の高い伸びとなった。一方、前月比は▲0.16%と前月（同+0.04%）から3ヵ月ぶりの下落に転じた。ただし、原油価格が再び上昇していることを反映してエネルギー価格に押し上げ圧力がかかるとともに、生鮮品や穀物など食料品価格も上昇するなど、生活必需品を中心に

物価上昇が続いている。民間道路輸送費と住居費を除いたコアインフレ率は前年同月比+2.0%となり、前月（同+1.6%）から加速して2024年10月以来の高い伸びとなった。前月比も+0.28%と前月（同+0.11%）から上昇ペースが加速している。エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストが押し上げられている一方、財・サービス物価は分野ごとにまちまちな動きをみせており、物価動向にはばらつきが生じている。

26日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+6.8%となり、前月（同+7.5%）から伸びが鈍化した。前月比は+2.30%と前月（同▲7.00%）から2ヵ月ぶりの増加に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は増加傾向で推移しており、底堅い動きが続いている。同国では、バイオ・医薬品関連の生産が月ごとに大きく変動するとともに、生産全体の動向を左右する傾向がある。当月のバイオ・医薬品関連の生産は前月比▲10.59%と前月（同+64.50%）から2ヵ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど力強さを欠いている。一方、バイオ・医薬品関連を除いたベースでは前月比+0.80%と前月（同▲10.90%）から2ヵ月ぶりの増加に転じている。石油化学関連の生産が旺盛な動きをみせるとともに、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の生産も底堅く、非鉄金属関連の生産も堅調に推移している。世界的なAI（人工知能）・半導体需要の旺盛さが、生産活動を下支えしている様子がうかがえる。

図5 SG インフレ率の推移

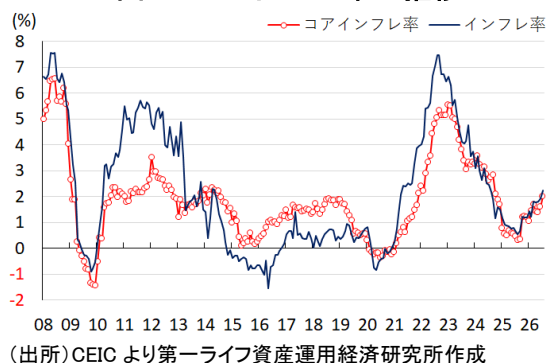
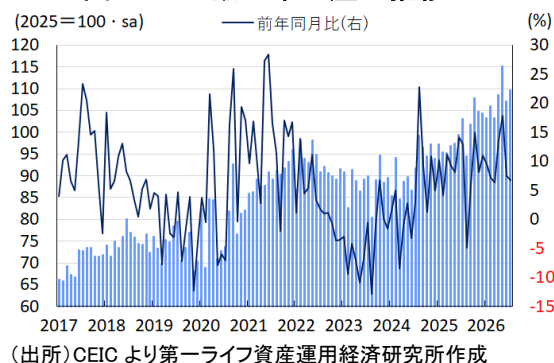


図6 SG 鉱工業生産の推移



以 上